

あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第60号

2022年11月15日発行

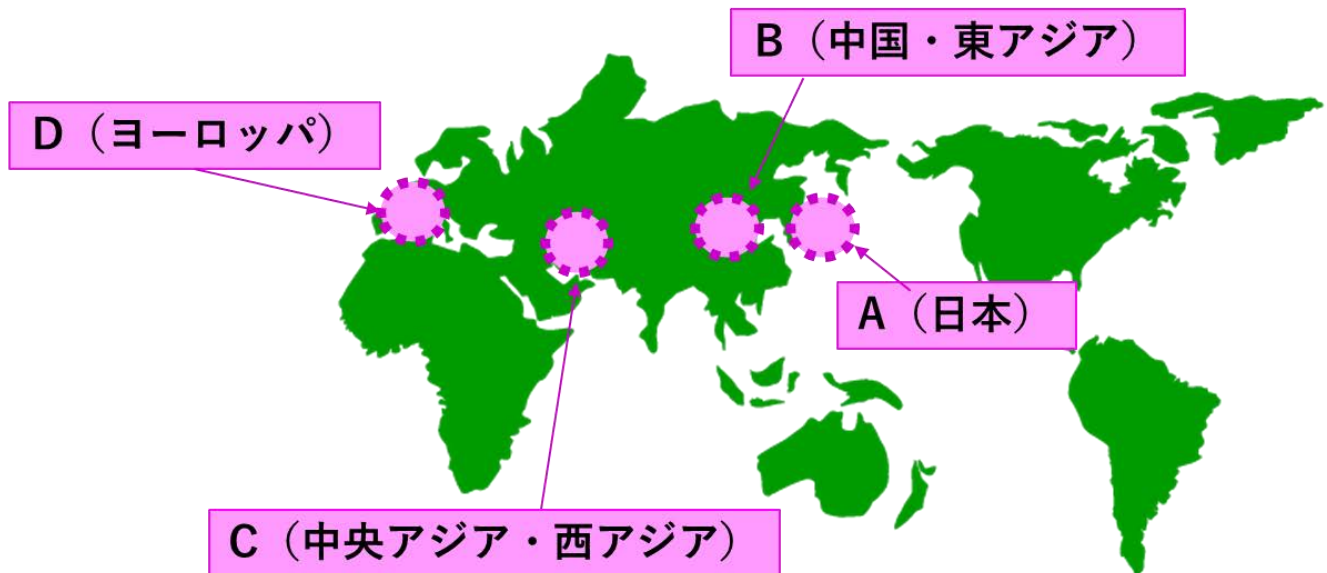
～野菜の原産地クイズ～

答は、本ページの下にあります

寒い季節になりました。冬の野菜を食べて体を温めましょう。

以下の野菜の**原産地**は、それぞれ、A（日本）、B（中国・東アジア）、C（中央アジア・西アジア）、D（ヨーロッパ）のうちどこでしょう？

- (1)ほうれんそう (2)かぶ (3)キャベツ
(4)ねぎ (5)大根 (6)白菜



<答>

- A（日本） ⇒該当なし
B（中国・東南アジア） ⇒(4)ねぎ、(6)白菜
C（中央アジア・西アジア） ⇒(1)ほうれんそう、(5)大根
D（ヨーロッパ） ⇒(2)かぶ、(3)キャベツ

（参考）日本原産の野菜の例：あしたば、おかひじき、つくし、ふき、みずな、みつば等

1. 受け入れ農家紹介

◆原田 賢宗さん（我孫子市根戸）

今回、あびこ型「地産地消」推進協議会の会報への掲載のお話を頂き、我孫子市で就農に至った過去を振り返ってみました。

会社員であった時から自宅近隣で畑を借りて、複数の野菜を栽培するなど、もともと農業に興味を持っていました。勤めていた会社での自分の将来が明るいものではないとの思いが徐々に強くなり、就農を前提に、平成24年9月に退職しました。

市内での就農を目指して、24年10月以降準備を開始。市の農政課から、研修先として鈴木さんを紹介して頂き、24年11月より25年4月まで栽培管理の実習をさせて頂きました。

併せて、借りられる農地探しに奔走。農政課や前述の鈴木さん、他の農家の方から情報を提供して頂き、農業経営のメイン作物と考えていたトマト栽培が可能なハウス付きの現在の農地に辿りつきました。

このハウスは築後相当期間経過しており、基礎をはじめとして主要な骨格部分は鉄材も太く、そのままの使用が可能だったものの、その他の鉄材・被覆フィルム・保温カーテン、暖房機等ほぼ全面的に新規部材・機器に交換が必要でした。また、前所有者から、当該農地は地下水の位置が高く、過湿を嫌うトマトの栽培には向かないと聞いており、土壌隔離栽培を検討。この場合、灌水・給液設備の設置等の工事が必要になることから、ハウスの工事とともに栽培設備の設置を行える業者を探し、現在もお世話になっているI社と出会うことができました。

平成26年2月に種々の工事が完了し、トマト栽培開始の準備が整いましたが、当初は大玉トマトを扱う自信が無く、ミニトマトと中玉トマトのみ栽培することにしました。3月初旬に苗を定植したものの、まだ実績が無く収穫量の見通しが立たないなかで、販売先の確保が次の課題になりました。再び鈴木さんから、あびこん等を紹介して頂くとともに、柏公設市場への出荷も行うことにしました。実際に栽培が進むと、ミニと中玉は色付きが早く、収穫自体にかなりの労力が必要なうえ、袋詰め・箱詰め等の調整作業、販売先への配達等に多くの時間を要し、必要な栽培管理に手が回らない状況が続きました。

子供が通っていた幼稚園を含め、8先に販売しましたが、結局、26年3月から7月の初めての作付けでは、収穫が間に合わなかった不良果が多く発生するなど、栽培・販売とも厳しい結果で終わりました。1作目の反省を踏まえ、平成26年8月からの2作目以降では、大玉トマトをメインに栽培することにしています。

農業を生業にしてから今年で8年経過、毎回様々な問題が生じ、都度対策を講じているものの、最終的には気候に左右され、考えが及ばない、又は少しでも気が抜いたことで大きな痛手を負うことになり、未だに満足出来る状況に至ったことはありません。

それでも、地産地消推進協議会の方を始め、今まで関わって頂いた方々に助けて頂いて、何とかこれまで続けることが出来ました。この場をお借りして御礼申し上げます。

経済面で考えると農業を選択したことは正解でなかったかもしれませんが、自分なりに充実した毎日を送れていると実感しています。

これからも、宜しくお願い致します。



◆増田 和夫さん（我孫子市中里）

聞き手：若王子 範文

増田さんは、高校を卒業後、本格的に家の農業の手伝いを始めました。親の身体が弱く、農家を継がなければいけないなどの思いが次第に強くなり、本格的に就農し、現在に至っていらっしゃいます。

昭和 22 年 6 月生まれで今年 75 歳になります。今暮らしている中里のこの家が実家で、ここで生まれ育ちました。家族は娘さん 2 人に恵まれ、今は奥様との 2 人暮らしです。

子供時代は、近所にある湖北小・湖北中学校に通いました。昭和 60 年代後半に湖北中が現在の中峠に移るまでは、湖北中学校と湖北小学校は同じ敷地にあったそうです。

野菜は、多種類（キャベツ、トウモロコシ、枝豆等）・小収穫で出荷しています。最近では、出荷していた直売所も二か所に減らし、借りていた畑も一部返却するなど、栽培する畑の規模も小さくされているとのこと。

高校時代は、柔道にいそむなど、頑強な体を作り上げましたが、最近はアルコールも控えて体をいたわっているそうです。



援農ボランティアの皆さんには、以前の作業は、種まき・苗の移植等をお願いすることも多かったのですが、最近では片付けや草取りが多くなってしまい申し訳ないと感じているとおっしゃっていました。



2. 第19期養成講座

援農ボランティア部会長 井出 史郎

第 19 期援農ボランティア養成講座スタートです。

今年で 19 期の援農ボランティア養成講座を開講することになりました。

この 2 年間、コロナ禍でも養成講座を止めず継続できたことに、あびこ型“地産地消”推進協議会、我孫子市農政課のご協力を継続して頂けていることに改めて感謝いたします。

コロナ禍での募集で感じていることは、応募いただける年齢層が幅広くなったこと。自分たちの住むこの我孫子市、そして農業に興味の先一端を向けていただける様になったのであれば、引き続きこの活動を頑張りたいと思います。

さて、今年は 12 名の養成講座参加者と一緒にスタートいたしました。開講式での援農ボランティアについての説明と我孫子市の農業についての説明を受け、いよいよ実習がスタートします。



ニンジンの草取り

初回の実習は、仲原農園での藁しきとニンジンの草取り。藁しきでは、ブロック状の藁を一輪車で運び、畑にまいてゆきます。まんべんなくまいてゆくのですが、中腰での作業は普段していないせいか、皆さん苦勞されている印象です。ニンジンの草取りでは、まだアゲハチョウの幼虫をたくさん見つけることができました。参加者の皆さんはそれを怖がりもせず、中には自分で飼うために持ち帰った方もいらっしゃいました。とてもいい感じだと個人的には感じ、初回の実習を終えました。

次は荒井農園での作業です。こちらはハウスでのトマト栽培を主力とされています。やはり年間を通して需要のあるトマトは、市内の受け入れ農家さんでの作業も多いです。今回はナスの後片付けや、マルチはがし等でした。収穫の終わった農地の片付けこそ援農ボランティアの本領発揮です！

そして最終回は、今回から新しく受け入れ農家さんを回るツアーを組み込みました。これは各自で受け入れ農家さんへ行く際、なかなか地図だけではたどり着けないことも多いと、実行委員会及び事務局に情報が入っています。(同じ苗字が多かったり、道がわかりずらかったりなど)。その点を改善するために、今回は実際に受け入れ農家さんに向かい、道・集合場所・目印などを覚えてもらうことを目的としています。

ことは比較的天気にも恵まれそうです。ぜひケガ等なく楽しんで閉講式まで頑張ってください、新しく援農ボランティアとして加わってもらいたいです。



藁(わら)しき

3. 市民のチカラまつり 2022 への参加

広報部会長 若王子 範文

2022 年度の方針として

- ・市民活動を知らない人が、地域貢献に関心を持つきっかけづくりの場とします。
- ・子どもからシニアまで、多世代が楽しみながら市民活動を知り、体験や交流のできる内容で行います。
- ・市民活動団体がお互いの活動を知り、交流を深める機会とします。



- ・市民のチカラまつり 2022 の主催は次の団体です「市民のチカラまつり 2022 企画委員会、あびこ市民活動ネットワーク、あびこ市民活動ステーション、我孫子市」

あびこ型「地産地消」推進協議会は活動紹介部門にポスター展示として参加し、アビスタストリートに9月14(水)～9月25日(日)のあいだ展示をしました。

今回は当協議会の大きな4つの活動—学校給食(新鮮な農作物)、援農ボランティア活動(食・農への親近感)、エコ農産物(生産状況の確認・安心感)、食育交流(食文化について理解を深る)の活動の様子をポスターにしました。



4. 消費生活展展示



広報部会長 若王子 範文

第46回消費生活展で展示された7団体のパネルがアビスタストリートでパネル展を開催されました。

8月1日(月)から11日(木)までの11日間に開催された展示会はアビスタに来館された方のうち約1100名の方がパネル展を見て下さいました。

パネル展参加の各団体の皆さんが毎日交代で見回り点検をして頂き何事もなく終了しました。我孫子市中心部の北(市民プラザ)と南(アビスタ)で開かれた消費生活展は多くの市民の方に見ていただく機会を作りました。

令和4年度の第47回消費生活展はメインテーマ「持続可能な社会をめざして ~みんなで取組もうSDGs~」で令和5年2月4日(土)5日(日)に市民プラザで開催されますのでよろしくお願いします。

5. 「あびこん」 この一年間

株式会社あびベジ 大炊 三枝子

「あびこん」って何？

あびこ農産物直売所のお店の名前です。

手賀沼親水広場内、水の館1階にあり、株式会社あびベジが運営している直売所です。以前は、我孫子新田でアンテナショップとして営業していましたが、平成29年から水の館に農業拠点施設として移転して来ました。出荷登録農家は市内農家のみで約100軒、株主も45軒の農家で、経営者も農業者です。

事業内容は直売事業部、学校給食部、加工事業部、飲食事業部、農園管理事業部があります。農業拠点施設としての農業振興や地域活性化の役割を果たすべく、今まで直売所への集客を図るための様々な取り組みをして来ました。そこで、直近この一年間の「あびこん」の取り組みをご紹介します。

まずは、直売所「あびこん」の品揃えですが、我孫子の農業が七色畑と言われるように、多品種栽培で色とりどりの季節野菜で賑わっています。最近では変わった野菜の出荷もあり、例えばイタリアン野菜でズッキーニ、花ズッキーニ、パクチー等、また、ハウス栽培によるトマトの年間出荷やキュウリ等充実しています。また、生落花生を多くの農家さんが生産し始め、人気商品にもなっています。



集客のためのイベント開催は、3年前からのコロナ禍で人を集める参加型イベント開催が出来ず苦慮しましたが、6月の創業祭では、お客様に日頃の感謝の意を込めて、我孫子産お米2合のプレゼント。また、他団体主催のイベント参加として、JR 上野駅での常磐線産直市への出店で我孫子産農産物をアピールし、また、サービスの一環として劇団を誘致し、演劇上演でもお客様に喜ばれました。

画期的な取り組みとしては、あびこん農業体験交流事業です。あびこんご利用者様に「あびこの食と農を知る体験交流」と名打って、年間3回実施しました。農業への関心や理解を深めてもらうには、農業体験が一番！だと思い、他地域で実施している農業体験とは一味違う内容で、収穫体験はもちろんのこと播種体験あり、そして惣菜部門が作った地元産農産物を使用したお弁当の会食や野菜クイズを楽しみ、収穫した農産物のお土産付きで至れり尽くせりの内容になっています。

次に、飲食部門、レストラン「米舞亭」では、移転オープン後3年経った令和2年に思い切ってコックレス化に踏み切りリニューアルしました。どうなるのだろうと危惧したもののスタッフのチームワークの良さと、美味しい地元産農産物を使用したお料理を召し上がって頂くという意気込みと、リーズナブルな価格の提供で多くのお客にリピートして頂いております。何よりも、手賀沼を望める景色が有難く、安らげる空間づくり、雰囲気良さを心掛けています。

昨年12月中旬から、手賀沼対岸道の駅しょうなんの拡大リニューアルオープンでは、客足を取られるのではという心配から、あびこんでは「冬野菜キャンペーン」の実施と、米舞亭では冬メニュー（けんちん汁）の導入で対抗しました。結果、さほど影響もなく現在に至っています。客層の違いとリピーター客が離れていないようです。

これからもお客様のニーズを敏感に察知し、魅力的な商品の品揃えに心掛け、集客に努めていきたいと思っておりますので、今後とも皆様のご支援をお願い申し上げます。



あびこんの事務所

6. イベント中止の連絡

「新型コロナウイルス」感染については、感染者数が増加の傾向が見受けられ依然予断を許さぬ状況にあります。そのため、下記の本協議会の年末年始イベントが3年続けて残念ながら中止になりました、

- ・会員年末の集い（忘年会）
- ・新年ちびっ子餅つき大会2023

発行：あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 齊藤徳剛

住所：270-1146 我孫子市高野山新田193（「水の館」2F）

（業務日 月・火・木）9：00～17：00

Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771

E-mail info@abiko-chisan.com HP <http://abiko-chisan.com/>

（協議会ホームページではカラーでご覧いただけます）

